

臨床研究・調査の概要

研究課題名	大規模言語モデル(LLM)による病理レポートエラー検出AIシステムの開発に関する予備研究
研究の概要	<p><u>※本研究は、神戸大学で予定される多施設共同研究の予備研究として先行して行われる研究です。</u></p> <p>【研究の目的・意義】目的：蓄積された病理診断レポートデータに対し、LLMを適用することで、所見文内の記述的・論理的なエラーを高精度で自動検出するAIシステムを開発します。意義：病理診断プロセスにおけるヒューマンエラーのリスクを最小化し、医療の質と安全性を向上させます。また病理医の校正負担を軽減し、診断業務の効率化に貢献します。</p> <p>【研究対象者】過去10年間に富山市民病院で病理診断（生検、手術検体、細胞診等）を受けた患者の匿名化された病理診断レポートデータです。研究に利用するデータ項目は、年齢、性別、臨床診断、臨床所見、依頼内容、臓器、採取方法、病理診断名、病理所見、診断者の識別子、診断と所見について修正前と修正後の紐づけ情報です。患者個人を特定可能な情報は扱いません。</p> <p>【研究の方法】期間：研究計画承認後より2028年3月31日 <u>データ抽出・匿名化</u>：過去10年間分の病理診断レポートから必要な項目を抽出し、連結不可能匿名化処理を施します。 <u>教師データの作成（アノテーション）</u>：抽出データに対し、エラー箇所とその種類をラベル付け（アノテーション）し、AI学習のための高品質な教師データセットを構築します。 <u>LLMの選定とカスタマイズ</u>：医療ドメインに適したベースのLLMを選定し、作成した教師データを用いてファインチューニング（特化型学習）を行い、エラー検出モデルを開発します。 <u>性能評価</u>：ランダムサンプリングし検出結果を病理医が確認を行い（定性評価）、Rist研究者は指標選定を評価します（定量評価）。</p>
研究資料の入手・閲覧	<p>研究資料については、研究対象者または当院が認める親族等の方からのご要望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障のない範囲で提供いたします。</p> <p>研究資料の入手・閲覧を希望される方は、次へご連絡ください</p> <p style="text-align: center;">富山市民病院 病理診断科 部長 濱島 丈</p> <p style="text-align: center;">TEL 076-422-1112（代表） FAX 076-422-1371</p> <p style="text-align: center;">e-mail jimukyoku@tch.toyama.toyama.jp</p>
個人情報の開示に係る手続	富山市情報公開条例等に規定する手続きに従い、適切に対応いたします。
相談等への対応	研究対象者からの除外を希望される場合、その他当該研究に関する相談等については、関係資料の入手・閲覧と同じ連絡先にご連絡ください。